

島根大学医学部内科学講座内科学第四医局報

道



～令和3年春号～



2021年3月 島根大学医学部グラウンドの桜

『道』

この道を行けば
どうなるものか
危ぶむ無かれ
危ぶめば道はなし
踏み出せば
その一足が道となり
その一足が道となる
迷わず行けよ
行けばわかるさ

～ タイトル『道』の由来について ～

『道』というタイトルの詩…。元々は、一休禅師の言葉だといわれていますが、一般にはアントニオ猪木が引退セレモニーのリング上で、ファンに送った最後のメッセージとして知られています。

田邊教授は、何か新しいことにチャレンジするとき、いつもこの詩を思い浮かべ、そして新しい道を切り開かんとする若者に、この詩を贈ってきたそうです。

島根大学医学部内科学講座第四も、常に前向きにチャレンジすることを忘れず、ただひたすらに医師としての『道』を進んでいこう…そういう想いを込めて、この『道』というタイトルを選びました。

内科学第四医局員・学内同門名簿

(2021年5月現在)

■内科学第四

田邊 一明 (医学部附属病院副院長、教授・循環器内科診療科長)

■循環器内科

遠藤 昭博 (准教授・副診療科長)

渡邊 伸英 (助教・医局長)

佐藤 寛大 (助教)

Minneapolis Heart Institute Foundation 留学中

大内 武 (助教・外来医長)

香川 雄三 (助教・病棟医長)

山口 一人 (助教)

川原 洋 (医員)

大嶋 丈史 (医員)

坂本 考弘 (医員)

安田 優 (医員)

吉岡さゆり (医員)

川波 由佳 (医員)

佐々木拓志 (医員)

村上 慧 (医員)

(学外)

浅沼 俊彦 (島根大学客員教授)

岡田 大司 (神戸市立医療センター中央市民病院)

中村 琢 (松江市立病院)

和氣 正樹 (東京大学)

松田 紘治 (松江市立病院)

岡崎 浩一 (済生会江津総合病院)

黒田 紘章 (益田赤十字病院)

森田 祐介 (札幌心臓血管クリニック)

山口 直人 (松江市立病院)

三浦 重禎 (浜田医療センター)

石倉 正大 (神戸市立医療センター中央市民病院)

古志野海人 (益田赤十字病院)

清水 彩華 (済生会江津総合病院)

田邊 淳也 (済生会江津総合病院)

山口まどか (島根県立中央病院)

■留学生

Ahmed T. Shamim (バングラディッシュ)

Rasel Miah (バングラディッシュ)

■腎臓内科

伊藤 孝史 (ワーキング・イノベーションセンター准教授、診療科長、血液浄化治療部長)

江川 雅博 (助教・外来医長)

福永 昇平 (助教・副診療科長・病棟医長)

川西未波留 (医員)

大庭 雅史 (医員)

園田 裕隆 (医員)

亀井 史佳 (医員)

(学外)

松井 浩輔 (出雲市民病院)

岡 朋大 (平成記念病院)

花田 健 (松江赤十字病院)

花田 昌也 (花田クリニック)

中西 宣太 (松江赤十字病院)

吉金かおり (おおつかクリニック)

岩下 裕 (浜田医療センター)

加藤 志帆

山内明日香 (近江八幡市立総合医療センター)

岩下 裕子 (浜田医療センター)

佐藤 陽隆 (島根県立中央病院)

高瀬健太郎 (島根県立中央病院)

芦村 龍一 (大阪大学)

星野 祐輝 (浜田医療センター)

■内科学第四資料室

影山久美子

藤森 直美

武田 瞳

大國 視子

■総合医療学講座

高橋 伸幸 (教授・大田総合医育成センター)

■検査部

吉富 裕之 (助教)

■救命救急センター

小谷 暢啓 (講師)



教授挨拶

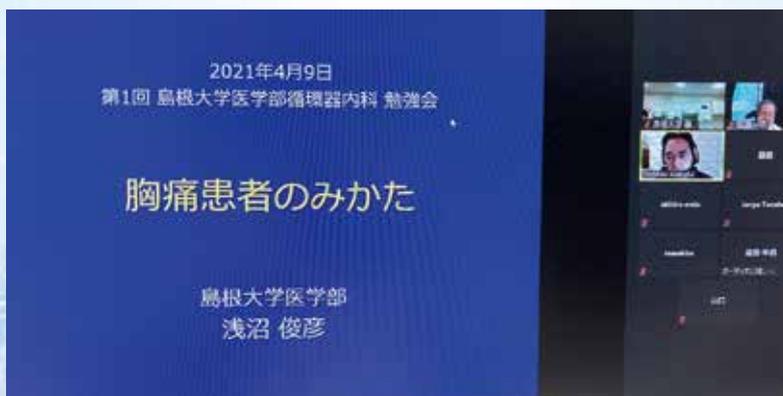


内科学講座内科学第四 教授 田邊 一明

新型コロナウイルス感染症の蔓延の中で緊張を強いられる日々が続きます。1年前の医局報（令和2年春号）と同じ書き出しです。幸いなことに医局は大過なくここまでのところは乗り切ってきました。この5月に入って鳥根県の感染状況も厳しくなり、まだまだ先の見えない日が続きます。最前線で感染制御に奔走されている皆様に感謝し、この時代がよい方向に進んで行くことを切に願っています。

循環器内科は4月から専攻医1年目として川波由佳先生、佐々木拓志先生、村上慧先生の3人の新入医局員を迎えました。「穏やかな海は良い船乗りを育てない」という格言がありますが、コロナ禍、ポストコロナを生きる医師として、どこに出しても恥ずかしくない医師となれるよう教育していきます。また、この4月より同門の浅沼俊彦先生に鳥根大学医学部客員教授に就任していただきました。研究の指導や教育にお手伝いをお願いします。早速、浅沼先生には大阪からオンライン勉強会を始めていただきました。

4月から森田祐介先生を冠動脈カテーテル治療の修行、CVIT専門医取得を目指して札幌心臓血管クリニックに派遣しました。札幌心臓血管クリニックは同門の鹿島由史先生が副院長であり、冠動脈カテーテル治療が年間2000件以上で全国1位にランクされています。理事長の藤田勉先生は私の国立循環器病センター研修時代の同期で机を並べた戦友でした。そんなご縁もあり、医局の発展に快く手を差し伸べていただき、こちらとしてもお役に立てる人材を送り続けていければと考えています（7月6日(火)には札幌心臓血管クリニックとオンラインの講演会を企画しています。ご視聴のご希望がありましたらご連絡ください）。鳥根県立中央病院の石倉正大先生は不整脈治療の研鑽を積んでもらうために神戸市立医療センター中央市民病院に派遣しました。神戸もコロナ禍で大変なスタートだと思いますが、鳥根県の不整脈治療の発展のために頑張ってきてほしいと思います。年度替わりの異動では、益田赤十字病院から吉岡（旧姓藤田）さゆり先生に帰局していただきまし



た。大学から県内関連施設へは古志野海人先生に益田赤十字病院、岡崎浩一先生、田邊淳也先生に済生会江津総合病院、山口まどか先生には済生会江津総合病院から島根県立中央病院に赴任していただきました。今年度も学内・外が一致団結して進歩していきたいと思ひます。

「幸運」は「不運」の姿をしてやって来る

学会発表もオンラインが続き、いつも医局から発信のため旅行でリフレッシュするということもできません。私もいつの間にかパスポートの期限が切れていました。そんな中で医局員にはホワイトボードに投稿した論文名を書き出

し、その数を競う空気が生まれました。症例報告や画像でもトップジャーナルから投稿してたどり着けるところまで、ということにはなりません、「投稿中」が「accept」に書き換えられる数が増え、2020年の1年間で英語論文30編以上が掲載、あるいはin pressとなっています。論文数だけでいえば爆発的な増加であり、医局にとっては幸運な時間になったと思ひます。2020年の年間英語論文数がトップの診療科として循環器内科が病院長表彰をいただきました。

大変な時代ではありますが、経カテーテル大動脈弁留置術（TAVI）、カテーテルアブレーション、心不全治療等の循環器診療、また学生教育、臨床研究に着実に成果を積み上げてきています。この時代をポジティブにとらえて、大学病院としての役割を果たしていきたいと思ひます。



医局報 ~春号~に寄せて

腎臓内科 診療科長・診療教授 / ワーキング・イノベーションセンター 准教授・センター長 / 血液浄化治療部長
伊藤 孝史



令和3年4月1日、新型コロナウイルス感染症が終息しないままに新年度が始まりました。どこにも出張しない期間が一年を過ぎてしまいましたが、それでも何とかなるんだなという思いと、そろそろ出張したい気持ちとが入り混じった新年度のスタートとなりました。

まず始めに、いつも支えていただいています内科学第四の諸先生方、島根大学医学部・医学部附属病院の諸先生方、そして出雲市内、島根県内、山陰地方、全国の諸先生方に心より御礼申し上げます。

今年度は待望の新入局がありました。平成31年（令和元年）度、島根大学卒業の亀井史佳先生です。2年間の松江赤十字病院での初期研修の後、腎臓内科を選んでくれました。昨年度は入局者がなく寂しい年度始めでしたが、今年度はやっぱり勢いがあり、嬉しいです。今後ともご指導賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

それでは、例年の如く令和3年度の腎臓内科の体制を紹介させていただきます。

①**島根大学医学部附属病院**：江川雅博先生、福永昇平先生、川西未波留先生、大庭雅史先生に昨年度から引き続き頑張ってください。浜田医療センターで1年間研修をした園田裕隆先生が大学病院に復帰され、新入局の亀井史佳先生を加えて昨年度同様総勢7名でスタートしました。また、血液浄化治療部の業務においても、昨年度同様、泌尿器科の協力のもと当科が中心となって業務を行っていきます。内シャント手術やシャントPTA入院に関しても、引き続き当科で診ていきます。みんな一丸となって診療・研究、研修医の先生・学生の教育を頑張っていきたいと思えます。

②**島根県立中央病院**：佐藤陽隆先生、高瀬健太郎先生には今年度も継続して頑張ってください。二人の若い力で、初期研修医の先生に腎臓病学の楽しさを伝えていただき、新入局につなげていただければと思います。

③**松江赤十字病院**：花田健先生、中西宣太先生には今年度も継続して頑張ってください。先生方の頑張り、指導が身を結び、今回の亀井史佳先生の入局に繋がったものと思えます。引き続き初期研修医の先生に腎臓病学の楽しさを伝えていただき、新入局につなげていただければと思います。

④**国立病院機構浜田医療センター**：岩下裕先生、岩下裕子先生には継続して頑張ってください。そして、一昨年入局し大学で2年間後期研修をした星野祐輝先生に赴任していただきました。島根県西部の拠点病院として業務量が増えているようですが、3人で力を合わせて頑張ってください。初期研修医の先生に腎臓病学の楽しさを伝えていただき、新入局につなげていただければと思います。

⑤**陶朋会平成記念病院**：岡朋大先生に今年度も継続して頑張ってください。引き続き、東部地区の腎疾患・透析の後方支援病院、さらには雲南・奥出雲・飯南地区の砦として頑張ってくださいと思います。

⑥**出雲医療生活協同組合 出雲市民病院**：引き続き、松井

浩輔先生に頑張ってください。現在、大学病院でのバスキュラーアクセス関連の手術に協力医として従事していただき、ご指導いただいているところです。引き続き、腎臓病領域の大学病院や県立中央病院の後方支援病院として、ご支援いただければと思います。

⑦**おおつかクリニック**：今年度から常勤医師の派遣を開始しました。大学病院から吉金かおり先生に赴任していただきました。群馬大学での研修、産休・育休以外は全て島根大学病院で勤務をされていましたが、初めての開業医での勤務となります。今までの経験を活かして、頑張ってくださいと思います。

以上が島根県内の常勤医師派遣状況です。

大学から県外に出向している先生は1名です。

①**芦村龍一先生**：引き続き大阪大学腎臓内科で猪阪善隆教授、山本陵平准教授のご指導のもと、3年目も頑張ってくださいと思います。

島根県内の腎臓病医療に関しましても、十分とは言えませんが引き続き支援できるような体制を築いていきたいと考えております。

①**松江地区**：松江生協病院におきまして、引き続き月曜日の透析・午後外来、水曜日の透析、金曜日の午前外来を担当させていただきます。

②**出雲地区**：

- ・出雲市民病院におきまして、水曜日に透析を担当させていただきます。
- ・おおつかクリニックにおきまして、金曜日の午前中に透析およびCKD外来を担当させていただきます。

③**雲南地区**：平成記念病院におきまして、隔週水曜日の午後に腎臓内科外来、毎週水曜日に宿直を担当させていただきます。

④**大田地区**：大田市立病院におきまして、火曜日の午前に腎臓内科外来を担当させていただきます。

⑤**江津地区**：済生会江津総合病院におきまして、毎週月曜



日に腎臓内科外来を、水曜日には透析管理を担当させていただきます。

⑥益田地区：益田地域医療センター医師会病院におきまして、毎週月曜日に外来・透析を担当させていただきます。

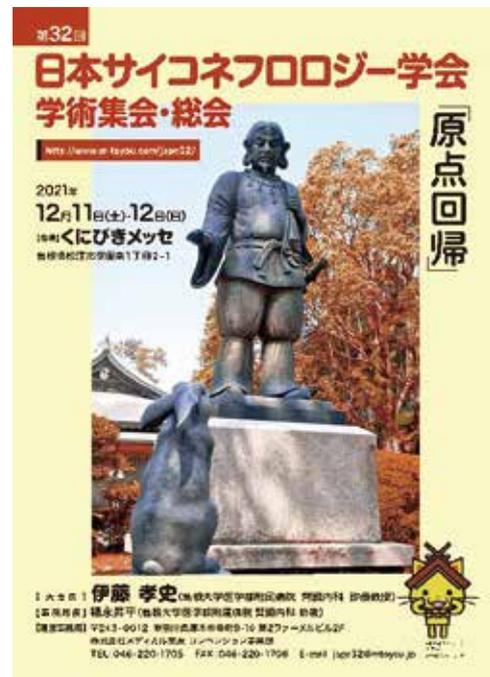
臨床研究面では、日本腎臓学会が主導している前向き研究にも継続して症例登録を行っており、その研究からはいくつかの論文が採択されています。また、「COVID-19流行期前後におけるANCA関連血管炎の臨床像に関するコホート研究」にも参加することが決定いたしました。さらに、日本アフェリシス学会のレジストリに参加し、今後のアフェリシス療法の標準化等に協力できればと考えています。

厚生労働科学研究費補助金（腎疾患政策研究事業）の「慢性腎臓病（CKD）に対する全国での普及啓発の推進、地域における診療連携体制構築を介した医療への貢献」の研究代表者とし、令和3年度も引き続きこの研究班が継続することが決定し、全国のCKD診療に携わる医療関係者の方々、行政関係の方々ともCKDの普及啓発、診療連携体制の構築に尽力したいと思います。また、厚生労働行政推進調査事業（腎疾患政策研究事業）の「腎疾患対策検討会報告書に基づく対策の進捗管理および新たな対策の提言に資するエビデンス構築班」（研究代表者：川崎医科大学 柏原直樹教授）の「普及・啓発」の研究分担者も引き続き担当させていただけることになり、CKD対策の推進に尽力したいと思います。新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、対面での市民公開講座やイベントは実施しにくい状況であり、昨年度はCKD啓発動画を作成し、島根大学病院の待合ホールや内科外来のテレビでも放映していただきました。厚労科研の柏原班・伊藤班のホームページ（<https://pmne-kd.jp/index.html>）で、その動画をダウンロードできますので、是非ご利用いただければ幸いです。

基礎研究面では、福永昇平先生が発生生物学教室での研究は継続していただいています。また、江川雅博先生は昨年度病態病理学の並河徹教授、大原浩貴先生の御高配により厚生労働科学研究費補助金「研究活動スタート支援」を取得し、病態病理学教室で少しずつ研究を始めています。引き続き、基礎医学講座の先生方とも共同研究を進めていければと考えています。

令和3年12月10-11日に、松江市のくにびきメッセで、第32回日本サイコネフロロジー学会学術集会・総会（<https://www.m-toyou.com/jspn32/index.html>）を主催させていただきます。本学会の前身である日本サイコネフロロジー研究会を創設されたお一人である春木繁一先生（島根県出身、島根大学医学部精神医学講座の非常勤講師も務められました）が1995年に第6回大会を開催され4半世紀、日本サイコネフロロジー学会がまた島根に戻ってきますの

で、今大会のテーマは色々な意味で初心に帰るということで、「原点回帰」とさせていただきます。現在、鋭意準備を進めております。実りある学会になりますよう、皆様のご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



一般住民の方々に対しても、慢性腎臓病（CKD）の啓発に力を入れていきたいと考えています。令和2年度の世界腎臓デー（毎年3月の第2木曜日）イベントも一昨年に続いて新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け中止になりましたが、出雲市役所に懸垂幕を掲揚していただきました。今年度こそ例年通り市民公開講座、世界腎臓デーイベントを行いたいと考えております。引き続き島根県のみならず、全国のCKD対策に貢献していきたいと考えています。



最後になりますが、我々島根大学腎臓内科は学内のみならず、学外（島根県内、山陰地方、全国）でも腎臓病診療・啓発、教育・研究に精進して参ります。島根大学腎臓内科の仲間と「縁」を結んでいただいている先生方におかれましては、今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

新入医局員 挨拶



循環器内科 川波 由佳

4月から島根大学循環器内科に入局させていただきました、川波由佳と申します。出身は福岡ですが、大学から島根で過ごし、すっかりこの地に魅了されてしまいました。循環器内科医として働き始めて、まだできないことも多く不安もありますが、先生方にも丁寧にご指導いただき、不安以上に毎日の新しい学びに幸せを感じるばかりです。循環器を選んで良かったと思うと同時に、「循環器内科の川波です。うん、いい響きだね。」と仰ってくださいました教授をはじめ、皆様にこいつが医局に入ってくれて良かったと思ってもらえるよう努力しなければと気が引き締まります。今はまだ肩書きに重圧を感じますが、いずれ自信を持って名乗れるように、同期と共に精進して参ります。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



循環器内科 佐々木 拓志

この春から循環器内科に入局させていただきました佐々木拓志と申します。出身は益田市で江津市や松江市で学校生活を過ごしました。島根大学医学部37期生で初期臨床研修は益田赤十字病院で行い、今年の4月から島根大学に帰ってまいりました。まだ慣れないことも多く大変なところもありますが、様々な場面で大きなやりがいを感じながら日々を送っております。これから少しでも多くの方々の力になれるよう日々精進してまいりますので、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



循環器内科 村上 慧

循環器内科医として働き始め、知識・技術不足で先生方にご迷惑をおかけしてばかりですが、温かく熱心にご指導いただき充実した日々を過ごしております。循環器内科医として、先生方のようにやく一人前になれるよう、また、ご指導いただきましたことが1つでも多く患者さんに還元できるよう同期3人で精進してまいります。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



腎臓内科 亀井 史佳

今年度より第4内科に入局させていただきました、島根大学医学部38期卒の亀井史佳と申します。これから腎臓内科専門医を目指し、日々精進して参りますので、どうぞ宜しくお願い致します。



業績

論文・著書・総説 (2020 年秋号以降掲載、掲載決定分)

1. Sakamoto T, Ito S, Sato S, Tobita H, Endo A, Yoshitomi H, Tanabe K. Evaluation of hepatic congestion in patients with heart failure using shear wave and strain imaging. *J Echocardiogr* 2020;18:260-261
2. Tanabe J, Morita Y, Ouchi T, Tanabe K. A ruptured large pseudoaneurysm of the left ventricle. *Intern Med* 2020;59:3105-3106
3. Pak M, Hara M, Miura S, Furuya M, Tamaki M, Okada T, Watanabe N, Endo A, Tanabe K. Delirium is associated with high mortality in elderly patients with acute decompensated heart failure. *BMC Geriatrics* 2020;20:524
4. Kawahara H, Endo A, Yoshitomi H, Tanabe K. Recurrent granulocyte colony-stimulating factor-induced aortitis after Pegfilgrastim administration. *Circ Rep* 2020;2:764-765
5. Tanabe J, Fukunaga S, Endo A, Ito T, Tanabe K. Tetany exacerbating heart failure: a case report. *Cureus* 13 (1): e12467 (January 4, 2021)
6. Ishikura M, Endo A, Sakamoto T, Tanabe J, Okazaki K, Ouchi T, Watanabe N, Tanabe K. Clarithromycin-induced coronary vasospasms caused acute coronary syndrome in a 19-year-old male patient. *Intern Med* 2021;60:281-285
7. Endo A, Sato H, Kagawa Y, Kawahara H, Morita Y, Yasuda Y, Pak M, Tanabe K. The effectiveness of target low-density lipoprotein cholesterol achieved with strict management in secondary prevention of long-term coronary events in Japanese patients. *Acta Cardiologica Sinica* 2021;37:65-73
8. Ishiguchi H, Yasuda Y, Ishikura M, Yoshida M, Imoto K, Sonoyama K, Kawabata T, Okamura T, Endo A, Kobayashi S, Tanabe K, Yano M, Oda T. Temporal trends in the incidences of ST-segment elevation and non-ST-segment elevation myocardial infarction during the past decade in a rural Japanese high-aged population. *Circ J* 2021;85:175-184
9. Yasuda Y, Ishiguchi H, Ishikura M, Yoshida M, Imoto K, Sonoyama K, Kawabata T, Okamura T, Endo A, Kobayashi S, Tanabe K, Yano M, Oda T. Incidence and demographics trend for acute coronary syndrome in a non-epidemic area during the coronavirus disease pandemic in Japan: a two-institutional observational study. *Circ Rep* 2021;3:85-89
10. Kawahara H, Endo A, Yoshitomi H, Tanabe K. Zebra body formation due to drug-induced phospholipidosis observed on electron micrographs. *Circ Rep* 2021;3:110-111
11. Ishikura M, Endo A, Koshino K, Kagawa Y, Tanabe K. Development of alveolar hemorrhage in patient with acute myocardial infarction complicated with essential thrombocythemia. *Am J Case Rep* 2021;22:e928409
12. Tanabe J, Watanabe N, Endo A, Nagami T, Inagaki S, Tanabe K. Asymptomatic immune checkpoint inhibitor-associated myocarditis. *Intern Med* 2021;60:569-573
13. Miura S, Fukushiro M, Yamaguchi K, Endo A, Tanabe K. Hepatopulmonary syndrome presenting as unexplained dyspnea after ventricular septal defect closure. *J Echocardiogr* 2021;19:56-57
14. Tanabe J, Watanabe N, Yamaguchi K, Tanabe K. A case of Wolff-Parkinson-White syndrome in which two-dimensional speckle-tracking echocardiography was useful for identifying the location of the accessory atrioventricular pathway. *Eur Heart J Case Rep* 2021;5(3):1-5
15. Yamaguchi M, Watanabe N, Yoshitomi H, Tanabe K. String-like structure in the left atrium. *Circ Rep* 2021;3:256-257
16. Fukunaga S, Hoshino Y, Sonoda H, Yamauchi A, Kawanishi M, Kato S, Yoshikane K, Shiina H, Tanabe K, Ito T. Remarkable elevation of procalcitonin levels due to diabetic ketoacidosis in a hemodialysis patient: a case report. *Intern Med* 2021;60:1231-1235
17. Yamamoto R, Ito T, Nagasawa Y, Matsui K, Egawa M, Nanami M, Isaka Y, Okada H. Efficacy of aerobic exercise on the cardiometabolic and renal outcomes in patients with chronic kidney disease: a systematic

review of randomized controlled trials. J Nephrol. 2021 Jan 2. doi: 10.1007/s40620-020-00865-3.

18. Takedani K, Notsu M, Koike S, Yamauchi M, Mori T, Sohara E, Yamauchi A, Yoshikane K, Ito T, Kanasaki K. Osteomalacia caused by atypical renal tubular acidosis with vitamin D deficiency: a case report. CEN Case Rep. 2021 Jan 4. doi: 10.1007/s13730-020-00561-y
19. Morita Y, Endo A, Kagawa Y, Yamaguchi K, Sato H, Ouchi T, Watanabe N, Tanabe K. Clinical effectiveness and adverse events associated with tolvaptan in patients above 90 years of age with acute decompensated heart failure. Heart Vessels (2021.2.2 published online)
20. Ishiguchi H, Shimizu A, Ishikura M, Yoshida M, Imoto K, Sonoyama K, Kawabata T, Sugamori T, Ogawa M, Uchida T, Nakamura T, Morimoto T, Yasuda Y, Tanabe K, Yoshiga Y, Okamura T, Kobayashi S, Yano M, Oda T. The association between atrial high rate episode and ischemic/major bleeding events in patients with cardiac implantable electronic device: A 10-year single-center cohort study. Circ J (2021.4.16 published online)
21. Kikuchi R, Tsuboi N, Sada KE, Nakatochi M, Yokoe Y, Suzuki A, Maruyama S, Murohara T, Matsushita T; Research Committee of Intractable Vasculitis Syndrome and Research Committee of Intractable Renal Disease of the Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan, Amano K, Atsumi T, Takasaki Y, Ito S, Hasegawa H, Dobashi H, Ito T, Makino H, Matsuo S. Vascular endothelial growth factor (VEGF)-A and VEGF-A165b are associated with time to remission of granulomatosis with polyangiitis in a nationwide Japanese prospective cohort study. Ann Clin Biochem. 2021 Mar;58(2):86-94. doi: 10.1177/0004563220968371.
22. Koshino K, Endo A, Watanabe N, Okazaki K, Tanabe K. Hydroxyzine induced Torsade de Pointes in a patient with complete atrioventricular block. Intern Med (2021.4.26 published online)
23. 花房規男、平川晋也、石森 勇、伊藤孝史、岩本ひとみ、王子 聡、大久保淳、太田秀一、草生真規雄、佐藤元美、斯波真理子、清島真理子、中永士師明、横山陽子、和田篤志、山路 健、松尾秀徳. 日本アフェレシスレジストリの概要. 日本アフェレシス学会雑誌2021;40(1):6-9.
24. 伊藤孝史. 腎臓領域におけるレジストリと臨床指標. 日本アフェレシス学会雑誌2021;40(1):25-35.
25. 田邊一明. 大動脈弁膜症. 今日の治療指針2021年版P423-426 (医学書院)
26. 田邊一明. 一般社団法人日本心エコー図学会第31回学術集会を開催して. 心エコー 2021;22:184-187
27. 田邊一明 (班員). 2021年改訂版循環器超音波検査の適応と判読ガイドライン. 2021年3月27日発行.

学会・研究会発表 (2020年秋号以降)

1. 田邊一明. Keynote講演「心膜炎・血栓」. 日本超音波医学会第93回学術集会. 2020.12.1-3
2. 坂本考弘、村上大輔、伊藤新平、遠藤昭博、吉富裕之、田邊一明. 心エコー図指標に基づいた機械学習による将来のHFrecEF群の予測因子. 日本超音波医学会第93回学術集会. 2020.12.1-3
3. 安田 優、石口博智、森田祐介、川原 洋、香川雄三、佐藤寛大、遠藤昭博、石倉正大、吉田雅昭、井本宏治、園山一彦、河端哲也、小田 強、田邊一明. 島根県出雲市における過去10年間の非ST上昇急性冠症候群の発生率についての検討-2施設後方視的研究. 第117回日本循環器学会中国地方会. 2020.12.5
4. 大嶋丈史、田邊淳也、古志野海人、坂本考弘、安田 優、森田祐介、岡崎浩一、川原 洋、山口一人、香川雄三、佐藤寛大、大内 武、渡邊伸英、遠藤昭博、吉富裕之、田邊一明. Combined pulmonary fibrosis and emphysemaに合併する肺高血圧症に対してシルデナフィル投与を行った一例. 第117回日本循環器学会中国地方会. 2020.12.5
5. 坂本考弘、田邊淳也、古志野海人、坂本考弘、安田 優、岡崎浩一、森田祐介、川原 洋、大嶋丈史、香川雄三、佐藤寛大、大内 武、山口一人、遠藤昭博、吉富裕之、田邊一明. 左室拡張能評価における肺エコーの有用性. 第117回日本循環器学会中国地方会. 2020.12.5
6. 田邊淳也、渡邊伸英、山口一人、古志野海人、坂本考弘、安田 優、森田祐介、岡崎浩一、大嶋丈史、川原 洋、大内 武、香川雄三、佐藤寛大、遠藤昭博、吉富裕之、田邊一明. 無症候性免疫チェックポイント関連心筋炎の1例. 第117回日本循環器学会中国地方会. 2020.12.5
7. 大内 武、田邊淳也、古志野海人、坂本考弘、安田 優、山口一人、森田祐介、岡崎浩一、大嶋丈史、川原 洋、香川雄三、佐藤寛大、渡邊伸英、遠藤昭博、吉富裕之、田邊一明. ATTRwtアミロイドーシス患者に心臓再同期療法を行った1例. 第117回日本循環器学会中国地方会. 2020.12.5
8. 古志野海人、田邊淳也、安田 優、坂本考弘、森田祐介、岡崎浩一、大嶋丈史、川原 洋、香川雄三、佐藤寛大、大

- 内 武、渡邊伸英、山口一人、遠藤昭博、吉富裕之、田邊一明. アントラサイクリン使用中にたこつば症候群を発症した1例. 第117回日本循環器学会中国地方会. 2020.12.5
9. 田邊淳也、清水弘治、中田朋宏、川原 洋、大内 武、香川雄三、佐藤寛大、渡邊伸英、遠藤昭博、山口一人、吉富裕之、田邊一明. 人工弁機能不全を呈した肺動脈弁機械弁置換術後の一例. 第117回日本循環器学会中国地方会.
 10. 古志野海人、吉富裕之、山口一人、岡崎浩一、安田 優、坂本考弘、大嶋丈史、田邊淳也、大内 武、森田祐介、川原 洋、香川雄三、渡邊伸英、遠藤昭博、織田禎二、田邊一明. 右冠動脈瘤の一例. 第23回島根臨床心エコー図研究会. 2020.12.19
 11. 坂本考弘、吉富裕之、古志野海人、山口一人、岡崎浩一、安田 優、大嶋丈史、田邊淳也、大内 武、森田祐介、川原 洋、香川雄三、渡邊伸英、遠藤昭博、田邊一明. 心不全患者に対する他臓器エコー評価. 第23回島根臨床心エコー図研究会. 2020.12.19
 12. 田邊一明. 新型コロナウイルス感染症時代の心不全診療. 第59回日本薬学会・日本薬剤師会・日本病院薬剤師会中四国支部学術大会. 2020.12.8
 13. 田邊淳也、大内 武、山口一人、今岡 圭、大矢菜穂子、岡崎浩一、川原 洋、遠藤昭博、吉富裕之、田邊一明. 運動負荷心エコー図検査をリハビリ指導に利用した肺動脈性肺高血圧症の一例. 日本心臓リハビリテーション学会第6回中国支部地方会. 2021.2.20
 14. 大庭雅史、星野祐輝、川西未波留、福永昇平、吉金かおり、江川雅博、今井健介、末廣章一、椎名浩昭、伊藤孝史. 人工血管感染を契機に大伏在静脈ループ型転位内シャントを作成した一例. 第29回中国腎不全研究会. 2021.3.7
 15. 伊藤孝史. コロナ禍における(腎臓病)診療で大切なもの. 第11回日本腎臓リハビリテーション学会. 2021.3.20-21
 16. 坂本考弘、田邊淳也、古志野海人、安田 優、森田祐介、川原 洋、大嶋丈史、香川雄三、佐藤寛大、大内 武、渡邊伸英、山口一人、遠藤昭博、吉富裕之、田邊一明. Evaluation of thyroid congestion in patients with heart failure using shear wave imaging. 第85回日本循環器学会学術集会. 2021.3.26-28、横浜
 17. 坂本考弘、村上大輔、田邊淳也、古志野海人、安田 優、森田祐介、岡崎浩一、川原 洋、大嶋丈史、香川雄三、佐藤寛大、大内 武、渡邊伸英、遠藤昭博、吉富裕之、田邊一明. Classification of HFrecEF based on echocardiography using machine learning to predict future HFrecEF. 第85回日本循環器学会学術集会. 2021.3.26-28、横浜
 18. 安田 優、石口博智、森田祐介、川原 洋、香川雄三、坂本考弘、村上大輔、田邊淳也、古志野海人、岡崎浩一、佐藤寛大、遠藤昭博、石倉正大、吉田雅昭、井本宏治、河端哲也、小田 強、田邊一明. Temporal trends in the incidence of non-ST-segment elevation myocardial infarction during the past decade in a rural Japanese high-aged population. 第85回日本循環器学会学術集会. 2021.3.26-28、横浜
 19. Endo A, Yasuda Y, Morita Y, Kawahara H, Kagawa Y, Sato H, Sakamoto T, Yamaguchi K, Yoshitomi H, Tanabe K. The effectiveness of target low-density lipoprotein cholesterol achieved with strict management in secondary prevention. 第85回日本循環器学会学術集会. 2021.3.26-28、横浜
 20. Murakami K, Ishiguchi H, Yasuda Y, Ishikura M, Yoshida M, Sonoyama K, Kawabata T, Endo A, Tanabe K, Oda T. The comparison of incidence of acute coronary syndrome between era of pandemic and pre-pandemic in a non-epidemic area of coronavirus-2019. 第85回日本循環器学会学術集会. 2021.3.26-28、横浜
 21. 坂本考弘、田邊一明. シンポジウム6 収縮期心不全(HFrEF)の治療を心エコー図で導く. HFrecEFの特徴. 日本心エコー図学会第32回学術集会. 2021.4.23-25
 22. <Best Case Presentation> 田邊淳也、岡崎浩一、山口一人、川原 洋、香川雄三、大内 武、渡邊伸英、遠藤昭博、吉富裕之、田邊一明. 心エコー図検査によって心筋解離を診断した一例. 日本心エコー図学会第32回学術集会. 2021.4.23-25
 23. 古志野海人、吉富裕之、山口一人、森田祐介、川原 洋、香川雄三、佐藤寛大、遠藤昭博、織田禎二、田邊一明. 常染色体優性多発性嚢胞腎を合併した右冠動脈瘤の一例. 日本心エコー図学会第32回学術集会. 2021.4.23-25



朴美仙先生、森田祐介先生に学位(医学博士)が授与されました

2020年度学位(医学博士)が朴美仙先生、森田祐介先生に授与されました。おめでとうございます。論文掲載までの道のりもご苦労様でした。学内で集合することも制限されており、学位審査もオンラインで行われました。同門の臨床教授である公受伸之先生、菅森峰先生に審査員としてご協力いただきました。お忙しい中、ありがとうございました。



朴先生は2021年4月からは出身地の京都市に戻られました。森田先生は2021年4月から冠動脈治療の症例経験を積むために札幌心臓血管クリニックに派遣しました。医学博士となり、臨床も研究も後輩たちの目標となる指導医となっていただくことを願っています。



留学報告

Minneapolis Heart Institute Foundation 佐藤 寛大



Paul Sorajja 先生と
(Sorajja 先生は小顔ですね)

2020年11月から、アメリカ・ミネソタ州ミネアポリスにありますが Minneapolis Heart Institute Foundation (MHIF) に留学させて頂いております。ミネソタ州はアメリカ中西部の北に位置します。冬は寒くマイナス30度になる日もあるくらいで、アメリカの冷蔵庫と呼ばれているようです(ミネソタっ子にこのことを言うと冷蔵庫じゃなくて冷凍庫だよ、と言われました)。

ミネソタといえば何が思い付くでしょうか。かの有名な Mayo Clinicがあるという他、いかがでしょう。1万個の湖があったり、post itや医療器具メーカーの3M本社があったり、SPAM(ハム)やRedwing boots(靴)の本社があったり、スヌーピーの作者チャールズ・モンロー・シュルツさんが産まれた街であったりします。アメリカ4大スポーツ(野球、バスケット、フットボール、ホッケー)は全てホームチームがあります。野球に関してはマエケンこと前田健太選手が在籍しており、機会があれば行ってみたいと思っています。州内最大都市はミネアポリスで、お隣の州都であるセントポールと合わせてTwin citiesと呼ばれて



います。ミネアポリスを一躍有名にしてしまったのは悲しい事にGeorge Floydさんが亡くなった事件とそれに伴うデモ、暴動ではないでしょうか。

私がこちらに来た2020年11月は、アメリカではCOVID-19の状況は非常に悪い時期でした（アメリカの感染者総数は2021年4月時点で3000万人以上、亡くなった方も57万人と世界最大）。東京発シカゴ行きの日本航空便は乗員15人、乗客20人でした。空港も閑散としていて、入国審査は誰一人並んでいませんでした。その頃はミネソタ州だけでも毎日1000人近くの新規患者が報告され、CNNニュースでは毎日亡くなった人の数が増えていき、見えない恐怖に怯えることもありました。留学先のMHIFはミネアポリスのミッドタウンに位置し、暴動があったLake streetのすぐ近くに 있습니다。現場周辺では破壊された建物や、窓ガラスに修理や補強のためのベニヤ板が貼ってある店が多く、COVID-19の影響、暴動による

破壊の影響、人々の警戒心による影響で街は異様な雰囲気でした。追い討ちをかけるように雪まで降り出して、とんでもないところに来てしまった、というのが私の最初の印象でした。自己隔離のホテル暮らし、生活基盤の形成からこちらの生活が始まりました。MHIFは留学生にrelocation serviceの外部委託をしてくれます。引っ越し、銀行口座、電話、各種公共料金等の手続きを手伝ってくれて非常に助かりました。しかし、未曾有のパンデミックにより、各種システム自体が変わっている事が多く、彼らにとっても初めての経験の事が多くなってしまい、Social Security Numberを入手するのに4ヶ月もかかった事も今ではいい思い出です。ホテルでの隔離期間を終えるとオフィスに行く事を許可されました。私はMHIFのvalve scholarshipを利用して留学させて頂きました。MHIFは研究機関ですが、隣接するAbbott Northwestern Hospitalが附属病院のように機能しており、そこでのデータを元に我々は臨床研究を行なっております。2020年11月までは、他のスタッフも在宅勤務だったようなので、ちょうど良い時に渡米できたのかもしれない。

Abbott Northwestern Hospitalは成人心臓疾患専門病院で、5つの一般的な心臓カテーテル室（ここでClip, TAVI等も行われています）の他、4つの電気生理専用のカテーテル室、5つの心臓外科専用の手術室（そのうち一つにシネ装置が付いています）があり、圧倒的な数の症例が毎日行われています。私が所属しているvalve science centerのdirectorであるPaul Sorajja先生がこちらのボスです。Sorajja先生以外にも、外科部門のVinayak Bapat先生や、画像検査部門のJoao Cavalcante先生を始めとして数多く



の先生から指導を受けることができ、研究も色々な先生と一緒にすることが出来ます。Valve science centerの医師達は、Sorajja先生が各部門のエキスパートを引き抜いてきたので、彼はNFLのヘッドコーチのようだと聞いた事があります。その専門家達の仮説や疑問からお前調べてみる、と研究が始まるところも面白いところです。Valve science centerには現在私の他、2人の日本からの留学生（東邦大学・橋本剛先生、兵庫医大・福井美保先生）が在籍してそれぞれのテーマで研究をしています。私以外の先生は主にImaging Labの仕事をしています。2週に1回開催されるscholar meetingでは研究内容に関する進捗状況を発表します。方法や結果の確認だけでなく、その研究の方向性や可能性についても議論を重ねますが、指導医達は興奮しすぎて、発表途中で終了時間を迎える事もあります。

Sorajja先生は弁膜症、構造的な心疾患のカテーテル治療においてアメリカのみならず世界のトップランナーであり、数多くの治療経験に加え、デバイス開発、臨床治験、AHA/ACCのガイドライン作成等に携わっていて、業績は数えきれない程です。Sorajja先生の最近の手技内容としては、MitraClipが多いです。2019年の症例数は87例で、累積件数は500例を超えました。ここでは、元々の適応の背景もあり、二次性MRよりも一次性MRに対する症例が圧倒的に多いせいか、MitraClipがMRのより根治的な治療になり得る可能性を感じています。私の最初の研究テーマもMitraClipの治療成績に関するものです。データベースの作成やデータ測定の試行錯誤により時間が掛かりましたが、ようやくひとまずの結果が出ました。今後、このデータベースを応用し、いくつかサブ解析ができればいいと思っています。症例数が一番多いTAVI（アメリカではTAVRと呼ぶ方が一般的です）は他の先生が担当することが多いですがSorajja先生も週0.5-1例の症例があります。全米最大の症例数を誇るtranscatheter mitral

valve replacement (TMVR) やtranscatheter tricuspid valve repair (TTVr) の治験も月に数例ずつあります。MitraClipの幾つかの研究が終わったら、TTVrのフォローアップの期間を迎える時期になりますので、今後研究課題になる予定です。ここでは、TAVI、MitraClip、TMVR、TTVrの他、ASD、PFO、PDA閉鎖、人工弁のparavalvular leakage (PVL) の閉鎖治療、大動脈仮性瘤に対するプラグ/コイル塞栓、HOCMに対する心室中隔のアルコールアブレーションやMitraClip、Tetralogy of Fallot 術後の肺動脈（弁）狭窄に対するステントグラフトや生体弁の留置等が行われており、まさにstructural heart diseaseを実感する毎日です。研究テーマは山ほどあり、日々時間が足りないと感じています。研究テーマは沢山あるので、貪欲にこなしていきたいと思っています。

日本はまだまだ大変な時期だと思います。そんな中、留学を許して頂いた田邊先生には感謝の念しかありません。遠藤先生や学内の先生、同門の先生にはご迷惑をお掛けして大変申し訳なく思いますが、皆様に良い報告ができるよう、精一杯頑張ってくる所存です。パーティー好きのアメリカ人も流石に昨年は自粛の一年でした。我々留学生は2月に病院職員対象の機会に便乗してコロナウイルスのワクチン接種を受けましたが、ミネソタ州では医療従事者、高齢者、飲食店勤務者等の接種も終わり、一般の若者も対象になりました。それに伴い感染状況も良くなり、街も院内も良い雰囲気になってきています。ミネソタにあるのは冬か夏かのように。長い冬もようやく終わるようです（先週雪が降りましたが）。まだまだその時ではないかとは思いますが、皆様をミネソタでお迎えできる日が来る事を祈っております。2009年のAHAで田邊先生にアメリカ（フロリダ州オーランド、ミネソタ州ロチェスター）に連れて行って頂き、その時からいつか海外留学したいと思っていました。あれから12年、一日一日を大切に過ごさせて頂いております。



同門会長挨拶



佐藤内科クリニック
佐藤 秀俊

爽やかな薫風が吹き抜ける立夏の候、同門会員、そして医局員の皆様には益々御清栄の事とお慶び申し上げます。しかしながら昨年からの新型コロナ感染症がなかなか収束せず、皆様には毎日ストレスが多いなかでの診療に当たられ、またワクチン接種も始まりご苦労が多々あるものとお察しいたします。どうかご自愛くださいますようお願い申し上げます。

例年5月に開催しております春の田邊杯ゴルフコンペ（医局コンペ）も、第4波感染拡大の現状を鑑みて井上副会長と相談し田邊教授のご意見を伺い中止せざるを得ないという苦渋の決断をいたしましたことは大変残念であります。その中で今年度も新しく4人の新入局員を迎える事が出来ましたことは大変嬉しく存じます。研究会など顔を合わせる機会もなく、新しく入局された先生方と我々同門会員が直接お話しする会合が早く開催される日を待ち遠しく思います。これからも更に内科学講座内科学第四が発展することを願い、同門会として全力で応援させていただきます。今後とも私と井上副会長に皆様のお力添えをどうかよろしくようお願い申し上げます。

伊藤医院・伊藤新平先生がm3.com地域版で紹介されました



「山陰で初めてドーム型ハウスでの発熱外来を実施した出雲市の伊藤医院は、県内で唯一、診療所として心臓リハビリテーションを行っている。心不全の患者数が全国で100万人を超え、がんと並ぶ社会的問題になりつつある中、訪問心臓リハビリテーションの実施や啓発活動などに力を注ぐ院長の伊藤新平氏に話を聞いた」と2回の連載で紹介されました。

(m3.com島根版、2021年5月7日掲載)



当院での心臓リハビリの風景

問診



準備体操
ストレッチ



エルゴメータを
使用した有酸素運動



CPX



整理体操
ストレッチ



レジスタンストレーニング



道

編集後記

松山秀樹選手が日本人で初めてマスターズを制覇しました。医師となり、卒後2年目に益田医師会病院に赴任した際に、先輩の吉金秀樹先生（1期生）にゴルフの道に引き込まれました。それ以来、上達はしませんが、4月第2週の週末はマスターズのテレビ中継が楽しみでした。松山選手の快挙にテレビ中継の放送席もテレビの前の私も「ただ嗚咽」という状況でした。何をそこまで真剣に、と思われるかもしれませんが、「真剣にやれよ！仕事じゃねえんだぞ！」というタモリさんの言葉が思い出されます。ゴルフは下手でも真剣になれるスポーツです。中国の諺に「1時間幸せになりたかったら酒を飲みなさい。3日幸せになりたかったら結婚しなさい。永遠に幸せになりたかったら〇〇を覚えなさい」とあります。〇〇には釣りが入るのですが、趣味を持ちなさいというように解釈されています。そんなことを思っていると、また緊急の会議の連絡が入ります。医局コンペも昨春以降3回中止となりましたが、また一緒に真剣にずっと楽しめる日が戻ってくることを願っています。みなさん、健康に過ごしましょう。（田邊）



オンラインビデオのバックが味気ないので観葉植物を置いてみました

島根大学医学部内科学講座内科学第四

循環器内科・腎臓内科

〒693-8501 島根県出雲市塩冶町89-1

電話 (0853) 20-2206 (医局資料室ダイヤルイン)

Fax (0853) 20-2201 (医局資料室)

循環器内科ホットライン 070-5672-8109

URL: https://www.med.shimane-u.ac.jp/internal_med4/index.html